



## 「星のオリエンテーション」

チャブレン 大柴 譲 治

彼らが王の言葉を聞いて出かけると、東方で見た星が先立って進み、ついに幼子のいる場所の上に止まった。学者たちはその星を見て喜びにあふれた。(マタイ 2:9-10)

教会で用いている暦ではクリスマスの四週間前の「アドベント」から新年が始まります。アドベントとはラテン語で到来を意味し、向こう側から近づいてこられるキリストに心を向けて身を整えながら待つ期間です。よく使われる「オリエンテーション」という語には「オリент=日の昇る方向=東」に身を向けるという意味があります。

教会は歴史的には聖壇が東を向くように造られていて、そうでない場合にも聖壇の方向を「東」と呼ぶ伝統があります。「義の太陽」(マラキ 4:1) であるキリストが到来する方向に身を向けてゆくのです。

方向を指し示すコンパスが地磁気に反応して北を指してピタッと止まるように、私たちの魂も神を向くように最初から造られているのです。神の愛が地磁気のように世界を覆っているのでしょうか。「神よ、あなたは私たちをあなたに向けて造られました。だから私たちの魂は、あなたに至るまでは安らぎを得ることはないのです」(アウグスティヌス『告白』)。

ハトはどんなに離れていても自分の巣に戻れる帰巣本能を持っていて、その本能もまた「オリエンテーション」と呼ばれます。しばしば聖書では聖霊がハトとして描かれますが、神の霊をいただいている私たちもまた神へと戻ってゆく帰巣本能を持っているのでしょうかね。クリスマスを前にして私たちがまた、キリストに向けて魂の方位を定めるように呼びかけられています。


昨年以來私たちは長い間、新型コロナウイルス感染症によって自粛を強いられる緊張の日々を過ごしてきました。医療従事者や福祉従事者にとってはそれは闘いの日々でもありました。感染症によって苦難と悲嘆とをもたらされた人々のために慰めと平安を祈ります。

そのような中私たちは今年もクリスマスを迎えようとしています。マタイ 2 章には、東からの占星術の学者たちが幼児イエスを訪れたと記されています。彼らは星に導かれての長い旅をしてきました。言うなれば、星のオリエンテーションです。天の星を仰ぎながら暗い足元を確認しながらの長い長い夜の旅であったことでしょうか。学者たちは高齢だったでしょうから、年齢的にも体力的にも夜の長旅は身体に耐えたとおぼろげに思われます。いつ終わるとも分からない旅なので、旅の準備や荷物も大変な重装備であったはずで

す。しかし学者たちは星を見て喜びにあふれます。「東方で見た星が先立って進み、ついに幼子のいる場所の上に止まった。学者たちはその星を見て喜びにあふれた」とあります。

「義の太陽」である救い主の誕生が、北半球では闇が最も長くなるこの時期に祝われるということは意味深いことと思います。クリスマスの出来事は闇のどん底に神からの救いの光が届いたということの意味しているからです。どんなに深い闇であっても、キリストの光が届かないような場所はありません。星のオリエンテーションに思いを馳せながら、この期間を過ごしたいと念じています。

皆さまに祝福をお祈りいたします。



## 「グリーンケア人材養成課程の実習に参加して」

ケアハウスるうてる入居者 野口 順子

6月にケアハウスの中村さんから「上智大学で勉強されている方とリモートで自由にお話をしてみませんか」とお誘いを受けました。人の話を聞くのは好きでも話すのは苦手な人見知りの私でしたが、勇気を出して伺いましたらパソコンの中でKさんが待っていてくださいました。


最初は緊張していた私でしたが、回数を重ねるごとに気持ちがとても楽になり、重かった足取りも軽く居室に戻ることができるようになりました。

趣味の読書やパッチワーク、また子供時代のことから現在に至るまでの様々な自由な話の時を過ごしているうちに、今ではすっかり打ち解けてKさんからの問いかけに考え込んだり、私からいろいろな質問を投げかけたりしています。時々に応じて答えをくださる時もあれば私が返答に困る時も度々ありましたが、そんなときは次回までの宿題にしましょうといてくださいました。

私が80歳を迎えた時にこれからどんな生き方をするのだろうかと不安であることを伝えると、「80代で希望を持っている人は90代も元気に過ごせますよ。無理をしないであれもできないこれもできないとあきらめないでチャレンジ精神を持ってプラスにしていきましょう」といてくださったときは、何か私の心の内を上手に引き出されているような気持ちになりました。

90分という限られた時間が終わった時には、気持ちが楽になっている自分に気がつきます。これまで15回続けてきたことで今まで人と話すことが苦手だった私は、心の内の何かを取り払われているような気がしています。

Kさんから「思ったことをスパッと行ってバラバラに話されていたことが、シンプルにまとまってきましたね」と言われたことから、少しずつ変化があったのでしょうか。感謝でした。



## 「スピリチュアルケア研修会に参加して」

通所事業部 見野 芳恵

10月30日「アルコール依存症の回復と予防ー喜望の家の活動から考えたことー」をテーマに、日本福音ルーテル教会釜ヶ崎ディアコニアセンター喜望の家代表の秋山仁牧師を講師にお迎えし、感染予防のためホーム内8か所に分かれて受講しました。

講義では、いろいろな物質や行為への依存症は「誰でもがかかる可能性のある病気」であることを学びました。病気なので意志とは関係なく一人で回復することはできず、正し

い治療が必要なこと、また回復と予防には自分の感情と向き合うことが不可欠で、それは誰にとっても必要なことなどが理解できました。

しかしながら、人間関係や社会生活が崩れてしまった本人を前に家族や周囲の苦勞はいかばかりか、また援助者はどこまで寄り添い続けることができるのか、正直なところ不安な部分もありました。

そこでグループワークで問いかけられた

のが、「援助者の側はどうですか?」「どう自分と向き合っていますか?」という問いでした。援助者として自分の感情にきちんと気づけているか、また一人の人間として自分自身を褒めたり守ったりしているかについて考えました。自分にできることとできないことを知り、自分の安心のためやコントロールするための援助になっていないかを振り返り、何より本当に困って苦しんでいるのはクライアント本人であることを心にとめて話し合いを行いました。

私自身、支援がうまくいかないと「がっか

りした」という感情を抱いてしまうことがあります。しかし、「失敗（再飲酒）しても何度でもやり直しができる」「失敗はそのきっかけを見つけて学び直すチャンス」「完治ではなく回復（日常生活を取り戻す）という考え方もある」という言葉には、援助者としてとても勇気をいただきました。

グループ内でも、考えを述べやすい投げかけや促しがあったり、グループでの役割を担うことの大切さを確認し合ったりと、職員同士が育ちあう姿勢を感じることでできた研修となりました。

## 「ミニるうてるフェスタについて」

軽費事業部 柏村 登代子

11月27日(土)、28日(日)の2日間にわたり「ミニるうてるフェスタ」が開催されました。今までの「るうてるフェスタ」は地域の方も参加いただき、とてもにぎやかなフェスタでしたが、コロナ禍が世間で広がる中で昨年度は残念ながら開催することはできませんでした。

今年は「コロナ対策で楽しみが極端に少なくなった中でも楽しみや気持ちの高揚を感じていただきたい」という思いをもとに、どうしたら開催できるかをホーム内で何度も話し合いを行いました。そこで今年は地域のお客様の参加は断念し、入居者の方やホームを利用されている方々の作品展、フラワーアレンジメント体験、喫茶などを内容とした「ミニフェスタ」を開催するにいたしました。

ケアハウスでは普段から趣味や特技を生かして、小物づくりや絵手紙の制作等多彩な作品作りに取り組まれている入居者の方

に作品の出展を募りました。

すべてを展示するのは難しいので厳選していただき、当日までにたくさん作品が集まりました。展示の場ができたことで作品作りに熱が入る方もおられ、生活の張りが生まれたと感じています。また、他の方の作品を観覧することで自作品への励みになるという声や今回は参加しなかったが次回には参加したいという意欲的な声も聞こえてきました。

新たな取組として、直接の観覧が難しい方に向けて展示の様子を動画で撮影し、館内TV放送で配信する試みを実施しました。スタッフがリポーターとなり、作品の解説も行ったので「実際に観覧するよりも良くみることができてよかった」と好評でした。

参加された方やされなかった方も大きな刺激を受けておられた様子で、次回の「フェスタ」に向けて、新しい作品への取り組みがもうすでに始まっています。

\*\*\*\*\* 召天者記念礼拝について\*\*\*\*\*

今年の「召天者記念礼拝」は、去る11月10日に大柴譲治チャプレン司式により、これまでうてるホームをご利用いただいた方々のお写真を飾り、数名の職員とともに感謝をささげる時といたしました。今年も残念ながらコロナ禍の状況によりご遺族をお招きすることができませんでしたが、はじめてYouTubeでのライブ配信にチャレンジしました。しかしながら機器の操作ミスにより当日になって配信リンクが途切れてしまうなどトラブルが続き、ご視聴される予定の方々にはご迷惑をおかけしたことをこの場をお借りし、お詫び申し上げます。来年こそは再び皆様にご参加いただい、懐かしいお話ができるよう希望をもって祈り続けたいと思います。(石倉智史)

後援会ご献金感謝報告

2021年7月5日から2021年11月30日までの献金総合計は、949,277円ございました。多額のご献金に感謝申し上げます。

今後とも皆様のご支援をどうぞよろしくお願い申し上げます。

編集後記 ●●●●●●●●●●●●●●●●

今年は季節の変わり目がわかりづらく、寒くなったり暑さが戻ったりと気候も混乱しているように思います。ホームでは相変わらずコロナ禍の影響を受けてはいますが、こうしてアドベントの季節を迎えられたことを感謝しています。皆様におかれましてもよいクリスマスをお迎えください。ご健康を心からお祈りしています。(石)

発行所 575-0002 大阪府四條畷市岡山五丁目19番20号  
TEL 072-878-9371 FAX 072-878-5293  
E-MAIL jimushitu@ruuteruhome.or.jp  
振込口座番号 00910-1-41037 加入者名 社会福祉法人るうてるホーム  
発行責任者 後援会長 徳野昌博